

# 代 表 質 問 通 告 書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和3年2月17日

会 派 名 新 政 会

多摩市議会議員 いいじま 文彦

多摩市議会議長 藤原 マサノリ 殿

## 質問項目

市長施政方針について

## 答弁者

市長・教育長等

|        |           |       |
|--------|-----------|-------|
| 受<br>付 | 令和3年2月17日 | No. 1 |
|        | 午前11時56分  |       |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>今年 2021 年は市制施行 50 周年を迎えます。また、今月 3 月 26 日は諏訪・永山地区から始まった多摩ニュータウン初期入居から 50 週年にあたります。それもあって、この 50 年間を振り返る中では、ニュータウンの話題がどうしても多くなるのではないかと思います。ただ、それ以前の多摩村、多摩町からお住まいになっていた方々の大きなご理解・ご協力もあって、現在の多摩ニュータウンは成り立ちました。</p> <p>市制施行前からお住まいになっていた市民の皆さまのお気持ちも、そして、この 50 年間に住まれた市民の皆さまのお気持ちも、全てをしっかりと受け止めながら、今年市制施行 50 周年をお祝いしたいと思います。</p> |
| <p>おめでたい年になるはずであります。昨年来、新型コロナウイルス感染症の拡大により、市民の皆さまの不安が精神的にも経済的にも増大する中、今年 2021 年は、兎にも角にも、まず第一に、市民の皆さまの命、安全を守ることを考えていかなければなりません。</p>                                                                                                                                                                                             |
| <p>1. 市民の命、安全を守るために</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <p>(1) 新型コロナウイルス感染症対策について</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| <p>市議会では、これまで 30 回を超える災害対策連絡会の中で、新型コロナウイルス感染症対策について、市から情報の提供を受け、意見や要望を出してまいりました。</p>                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>現場にいらっしゃる医療従事者やエッセンシャルワーカーの皆様に感謝するとともに、全ての皆さまと協力し合って、この厳しい状況を乗り越えていきたいと思っています。</p>                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>多摩市においては、現在、ワクチン接種に向けての体制の整備を進めておられます。健康推進課の特命事項担当課長をはじめ、関係職員の皆さまにメールをお送りさせていただきます。</p>                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>1 点のみ質問させていただきます。歩行困難であったり、車いす利用であったり、動くことが困難な方のワクチン接種に関して、多摩市として、何らかの配慮を考えていらっしゃるのか、お伺いします。</p>                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>(2) 多摩市の医療について</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>コロナ禍の中で、このままでは医療危機に陥ってしまう、重症患者の病床数が足りないというニュースが幾度となく流され、日頃は何でもなくても、有事に備えて医療体制を整えておくことの必要性、重要性を強く思い知らされました。</p>                                                                                                                                                                                                             |
| <p>このような状況を踏まえ、多摩市及びその周辺における医療体制の課題について、多摩市としてどのように考えているか、お伺いします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                         |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                             |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| (3) 日本医科大学多摩永山病院について                                                                                                                                                                                                                                        |
| 開院以来長らく地域の高度医療を担ってきていただいた日医大多摩永山病院が、老朽化に伴う建て替えに向けて動いています。南多摩地区の拠点病院として第三次救急医療に強みを持ち、昨年からは救急・総合診療センターを新設して夜間救急をさらに強化されています。また、全患者のうち多摩市民が 40-50%を占め、周産期医療については独自のネットワークを持つなど特色のある医療を行っているそうです。感染症対応でも医療従事者自身への危険を顧みず、新型コロナウイルス感染症の対応に当たられたことには改めて深く感謝申し上げます。 |
| しかし、移転予定地のレッドゾーン指定や感染症による経営状況の悪化などが重なり、多摩市への財政支援の要望があったと聞きました。病院の老朽化によって雨漏りも激しく、空調設備などの施設修繕だけで年間で 5000 万円のコストがかかるそうです。                                                                                                                                      |
| ① 基本合意書策定状況や財政支援に関する要望など、現在の状況と論点、今後のスケジュールについて、お伺いします。                                                                                                                                                                                                     |
| ② 東京都が当該地をレッドゾーン指定するに至った背景と理由、解除のための費用負担と工事プロセスについて、お伺いします。                                                                                                                                                                                                 |
| ③ 例えば認知症や生活習慣病等に対応していくためにも、これまで以上に緊密な関係を築くために、多摩市と病院の間での人事交流などを検討できないか、お伺いします。                                                                                                                                                                              |
| (4) コロナ禍での防災について                                                                                                                                                                                                                                            |
| 2 月 13 日夜に発生した地震は、福島県・宮城県で震度 6 強の大きい揺れを観測し、その揺れの大きさ、時間からも、10 年前の東日本大震災を彷彿とさせ、不安に襲われた方も少なくないと思います。                                                                                                                                                           |
| 東京でも首都直下地震が今後 30 年以内に 70%の確率で起きると予測され、いつ何が起きてもおかしくない状況です。                                                                                                                                                                                                   |
| 多摩市がコロナ禍での防災対策、避難所対策として行っていること、行う予定であること、来年度は地震を想定した総合防災訓練に水害による避難想定という要素も取り入れた形で開催とのことですが、その具体的内容についても、お伺いします。                                                                                                                                             |
| 2. 市民の暮らしと雇用を守るために                                                                                                                                                                                                                                          |
| 2 月 15 日に公表された 2020 年 10 - 12 月期 GDP 速報では、実質成長率は前期比プラス 3.0%、年率に換算するとプラス 12.7%と 2 期連続のプラスであった。西村経済財政政策担当大臣も、日本経済の潜在的な回復力を感じさせる内容になっているものと評価したい、と語っています。                                                                                                      |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>しかし、同日あわせて公表された 2020 年の実質 GDP 成長率は前年比マイナス 4.8%とリーマンショック以来の大幅な落ち込みとなりました。我が国の経済は依然としてコロナ前の水準を下回っており、回復は道半ばです。緊急事態宣言で消費も平年を下回って推移しています。多摩市民、そして多摩市内の事業者も厳しい状況が続いています。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>(1) 1 月末に発表された昨年 12 月の労働力調査によると、完全失業率は 2.9%でした。昨年 12 月は 2.2%でしたので、0.7%増加です。失業率は自殺率と密接な関係があると言われており、学者の中には、日本の失業率が 1%上がると、自殺者が約 2,000 人増えると試算している方もいます。</p> <p>また、東京都の有効求人倍率（季節調整値）は、一昨年 12 月に 2.08 だったものが、昨年 12 月は 1.16 と大幅に下がっています。</p> <p>大卒内定率も一昨年 12 月に 87.1%だったのが、昨年 12 月は 82.2%と約 5 ポイントも下がっています。</p> <p>コロナ禍においては、全ての方が苦しい状況であり、全ての方を支援していく必要があると思いますが、失業者あるいは就職困難者は、収入が全く無い状況となり、日々の生活に直結してきます。支援する必要性がひっ迫しています。このような方に対して、多摩市として、どのような支援ができるのか、お伺いします。</p> |
| <p>(2) 職住近接のまちづくりについて</p> <p>市内にサテライトオフィスを設置する事業者に対して、整備や改修にかかる費用の一部を補助する事業を行うとのことですが、職住近接の必要性については、コロナ禍以前から、当会派は、継続して訴えてきました。</p> <p>多摩市内には、最近、多くの空きマンション・アパートや空き団地などの物件があります。</p> <p>そこで、それらを活用し、市内で働きたいという意欲のある方々、経営者に対するビジネス支援をすることは考えられないか、お伺いします。</p>                                                                                                                                                                                                            |
| <p>3. 「子育てするなら多摩市」</p> <p>多摩市では、昨年 10 月から子育て世代包括支援センター事業が始まり、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援がより充実したものになります。</p> <p>また、多摩市内の保育所・幼稚園は、子どもたちのために、という意識を高く持たれ、質の高い保育・幼児教育を提供して下さっています。</p> <p>児童館や学童クラブも、同様であり、地域や保護者からの評価も高く、安心して子どもたちを見守っていただくことができています。</p>                                                                                                                                                                                                                         |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>このように、多摩市の子育て・子育ては、恐らく他市に比べても、恵まれていると思うのですが、これをしっかりとアピールできていないのではないのでしょうか。子どもを産み、育てるにあたって、やさしく、あたたかく、魅力的なまちづくりはできているのに、少子化が進んでいることに危機感を覚えます。全国的な傾向といえども、まだまだ何かできるはずです。</p>  |
| <p>(1) 多摩市の出生率の現状について、お伺いします。年々少なくなっていると聞きますが、その原因をどう分析しているか、お伺いします。</p>                                                                                                       |
| <p>(2) 「子育てするなら多摩市」を堂々とアピールしたらよいと思います。そのためには、強烈なアピールポイントも必要なのかもしれませんが。何か良いアイデアを考えていただけないか、お伺いします。</p>                                                                          |
| <p>(3) 小学校にもよりますが、学童クラブの待機児童が多く発生しています。</p>                                                                                                                                    |
| <p>来年度は東寺方小第三学童クラブができますが、現在の児童推計の予測からすると、今後、市内に学童クラブを新設するのはなかなか厳しいとも思われます。</p>                                                                                                 |
| <p>いまだに学童クラブの学校内への設置が進んでいない地域もあります。そのような地域においては、学校内の施設を利用した学童クラブの運営も有り得るのではないのでしょうか、市のお考えをお伺いします。</p>                                                                          |
| <p>(4) 放課後の子どもたちの居場所は、学童クラブだけでも、放課後子ども教室だけでもありません。子どもたちや各家庭の状況に合わせて、多様な選択肢があるのが望ましいと思います。一例にすぎませんが、保護者によっては、公園に見守りの人がいれば、学童クラブに通わずとも公園で遊ばせていけばよい、という方もいます。地域ごとの実情もあると思います。</p> |
| <p>市内の地域ごとに、放課後の子どもたちの居場所は何処がよいのか、を是非考えていただけないか、お伺いします。</p>                                                                                                                    |
| <p>4. 教育都市・多摩</p>                                                                                                                                                              |
| <p>愛和小でのタブレット端末導入など、以前から先行していた多摩市ですが、コロナ禍もあって、教育のデジタル化の波が一気に押し寄せました。昨年の臨時休校時には、Google Classroom の利用を試み、多摩中では何百本もの動画を作成して配信、全国的にも先駆けた取り組みとなりました。</p>                            |
| <p>他の中学校でも ID 取得が遅れ、実践には至らなかったものの、各校で先生方が意欲的に動いて下さったと聞きます。</p>                                                                                                                 |
| <p>また、今年度は学校公開が中止され、学校の活動をよく見学できていませんが、展覧会や学習発表会等を観る限り、コロナ禍でも子どもたちの学びを止めることなく、児童・生徒が明るく力強く学校生活を送っていることが伺えました。</p>                                                              |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 市内各小・中学校の SDG s への取組みも年を重ねる毎に充実し、多摩市も教育都市として胸を張って謳えるぐらい、自信を持って良いのではないかと考えます。以下、何点かお伺い致します。                                                                          |
| (1) G I G A スクール構想について                                                                                                                                              |
| ICT 活用が注目されますが、当然ながら、それは教育のための一手段にすぎません。目指すところは、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、全ての子どもの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現することだと考えます。そのような学びを実現するために、多摩市はどのように ICT 活用を図ろうと考えているか、お伺いします。 |
| (2) 35 人学級の導入について                                                                                                                                                   |
| 国は小学校の 35 人学級を制度化するために義務教育標準法を改正し、来年度から 5 年かけて実施する計画のようですが、多摩市はスムーズに対応できるのか、35 人学級を導入するために多摩市として、どのような対応が必要になるのか、お伺いします。                                            |
| (3) 不登校総合対策について                                                                                                                                                     |
| 多摩市では、昨年 11 月に不登校総合計画が策定されましたが、特に、市内中学校での不登校生徒の出現率が 4 % を超えており、非常に気になるようです。                                                                                         |
| ① 児童・生徒のアセスメントにあたり、市内の小中学校の各 1 校で、心理検査「hyper-QU」を試行されていますが、その試行の状況や結果について、お伺いします。                                                                                   |
| ② ICT を活用した学習支援が多摩市の不登校総合対策の特色の 1 つだと思いますが、今年度の活用状況はどうであったか、来年度はどのように活用していくか、お伺いします。                                                                                |
| (4) 特別支援学級について                                                                                                                                                      |
| 多摩市は特別支援教育推進計画を進めており、市内外から評価され、お子さんを通学させるために他市から転入してくる例もあると聞きます。それを除いたとしても、特別支援学級に通う児童・生徒数が増えているようですが、その推移・状況をお伺いします。                                               |
| また、特別支援学級の指導には豊かな経験が求められるように思いますが、年数が浅い、若い先生が担当されているケースもあると聞きます。特別支援学級の教職員の質の担保について、どのように考えているか、お伺いします。                                                             |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5. ワクワクするまちづくり                                                                                                                                      |
| 20 世紀は「物」の時代だが、21 世紀は「心」の時代になると、子どもの頃に聞かされたことがあります。                                                                                                 |
| 実際、内閣府の国民生活に関する世論調査において「今後の生活において、これからは心の豊かさか、まだ物の豊かさか」との問いに、令和元年では、「心の豊かさ」と答えた者の割合は 62.0%、「まだ物の豊かさ」と答えた者の割合が 29.6%と、心の豊かさ重視の方が 30 ポイント以上も多くなっています。 |
| まちづくりにおいても、たんにハードを整備するのではなく、人々の心を震わせる、ワクワクさせるような感動や喜びを与えられる仕掛けを多く整備していくことが求められていると思います。そのような中で、今後、期待したい 2 つの事業について伺います。                             |
| (1) 聖蹟桜ヶ丘北側エリアの「かわまちづくり」について                                                                                                                        |
| 昨年 3 月、聖蹟桜ヶ丘北側エリアのにぎわいづくりに向けて、現在の一ノ宮公園、聖蹟桜ヶ丘北地区土地区画整理事業で新設された堤防道路に隣接する堤防部分が、国土交通省の「かわまちづくり支援制度」に登録されました。                                            |
| 聖蹟桜ヶ丘北地区は大型マンションの建設も進んできて、一体、どんなタワーが立つのだろうと、気になる方も多くなっています。多摩川河川敷、一ノ宮公園も、せいせきみらいフェスティバルや、昨年末のラスカル&キネコ映画祭などが開催され、市民にとって、気になるスポットになってきています。           |
| ただ、「かわまちづくり」登録から 1 年間、コロナ禍といえども何も進んでいないのでは、との近隣の住民の声もあります。一ノ宮公園にしても、台風 19 号でテニスコートまで流されてしまった後、応急の対策はしていただいたものの、他市の河川敷が修繕されていくのに、こちらは変わっていないのではないかと。 |
| 一体、ここでは、どんな取り組みが行われるのでしょうか。何かワクワクするようなことが実現されていくのか、お伺いします。                                                                                          |
| (2) 南多摩尾根幹線沿道の土地利用について                                                                                                                              |
| 現在、多摩ニュータウン再生推進会議において検討されている最中かと思っています。多摩市のホームページに挙げられた資料からは、エリアの特性や土地利用の方向性などを踏まえつつ、アイデアヒアリングも行いながら、検討されている様子が伺えます。                                |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>多摩市のロードサイドで大きな開発といえば、もうここしか残っていないのではないかと。それだけに自分たちとしても非常に大きな期待を持っています。学者や企業の意見を聞きながら、産官学で共に取り組んでいるのですが、多摩市としては、尾根幹線沿道をどんなワクワクする場所にしたいと考えているのか、お伺いします。</p>                                          |
| <p>6. 市制施行 50 周年～今年を大きな転換点とするために</p>                                                                                                                                                                  |
| <p>(1) 超高齢社会への挑戦について</p>                                                                                                                                                                              |
| <p>多摩市では後期高齢者人口が前期高齢者人口を超えました。これまで以上に元気なお年寄りを増やしていかなければなりません。ただ、いままで大丈夫だった家や団地の階段を昇れなくなったり、これまで出来たことが少しずつ出来なくなったりするのは、高齢化したら誰もが直面することです。</p>                                                          |
| <p>直接は高齢者福祉や介護の所管部署が考えていくのですが、住宅であったり、交通であったり、全庁的に捉えて、超高齢社会に挑むべきであると思いますが、市のお考えをお伺いします。</p>                                                                                                           |
| <p>(2) デジタル社会の到来について</p>                                                                                                                                                                              |
| <p>デジタル庁の創設によって、自治体のDX（デジタルトランスフォーメーション）が提唱されています。今後、否応なく、行政のデジタル化に直面することになります。その中で、情報システム課から情報政策課への名称変更は時代の流れに沿うものであると思いますが、デジタル化を推進するには、組織体制と人材が重要であると言われています。今後、この2つをどのように準備していくのか、具体的にお伺いします。</p> |
| <p>(3) 市役所庁舎の建替えについて</p>                                                                                                                                                                              |
| <p>令和3年度、コロナ後の時代を見据えて、庁舎建替えにかかる基本構想の策定に向けて動き出すことに賛同します。</p>                                                                                                                                           |
| <p>平成28年11月に「多摩市役所庁舎のあり方検討委員会」の報告書が提出されて以来、庁舎の建替えの話は実質的にストップしているものと認識しています。しかしながら、令和11年には庁舎を建て替えるという目標からも、防災拠点として望ましい耐震強度の確保からも、有事の際には指令本部となる拠点としての役割からも、コロナ禍で財政が厳しいと言って、これを後回しにするわけにはいきません。</p>      |
| <p>ただ、コロナ禍による環境変化で、市役所に求められる役割、機能は変わってきています。環境の変化は著しく、今後も変化しつづけていくことが予想されます。</p>                                                                                                                      |
| <p>例えば、以前の庁舎のあり方の検討では、求められるものとして、庁舎機</p>                                                                                                                                                              |



# 質 問 内 容

能の集約化ということが挙げられていましたが、その考え方は、いまの時代にあっているのでしょうか。

ぜひ、今回、庁舎建替えにかかる基本構想の策定に向けては、現在、市役所に求められる役割、機能は何か、というところに立ち返って、議論し直していただきたいと思います。市のお考えをお伺いします。

以 上

# 代 表 質 問 通 告 書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

令和3年2月17日

会 派 名 公明党

多摩市議会議員 三階 道雄

多摩市議会議長 藤原 マサノリ 殿

## 質問項目

市長施政方針について

## 答弁者

市長・教育長等

|        |           |       |
|--------|-----------|-------|
| 受<br>付 | 令和3年2月17日 | No. 2 |
|        | 午前9時8分    |       |

## 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>昨年から続く新型コロナウイルス感染症により、亡くなられた方々に心から哀悼の意を表しますとともに、感染された皆様に心からお見舞い申し上げます。また感染症対応の最前線で患者のケアにあたっている医療関係者の皆様にも感謝を申し上げます。</p> <p>今なお世界各地で新型コロナウイルスが猛威を振るい混乱が続いています。わずか一年余の間に、これほど世界が一変するとは誰も予想していなかったのではないのでしょうか。数多くの命と健康の喪失に加え、経済的・社会的な困窮の影響が世界各国、同時に広がったことでは今までに経験したことの無い規模の「災害」であります。そのためにも次年度においては新型コロナウイルス感染症の克服と経済回復や生活再建への対策を全力で取り組み、市民に安心と希望を届けなければなりません。</p> <p>まずは、この感染症で亡くなった家族は勿論のこと、「生活の基盤が突然絶たれてしまった」「未来がまったく見えなくなった」そのような喪失感を抱えている方の苦しみを、取り除く必要があります。そのためには行政が市民一人ひとりに寄り添い、細部に至るまでの対応が必要となります。「誰一人取り残さない。」その気概を持ち職員の皆様には一丸となって対応していただきたい。そのことをまず要望いたします。</p> <p>また感染者への差別や、新型コロナウイルス感染症を巡るデマの拡散が気になるところです。古くはペストやエイズに至るまで、感染症に苦しむ人の差別やパニックによる混乱など歴史は繰り返してきました。感染症の恐怖心から警戒心となり、苦しむ家族や関係者などへ偏見を持ったり、責任を転嫁するような社会が強まることが心配です。現代においては、感染症に関する誤った情報やデマがインターネットを通じて瞬時に世界へ拡がります。いわゆるインフォデミックと呼ばれ、強い注意喚起と人権教育が必要です。</p> <p>更には、新しい生活様式「ソーシャルディスタンス」という表現が定着しましたが、緊急避難的なものであり、未来にわたり取るべき行動ではないと考えます。コミュニケーションあつての人間らしさであります。</p> <p>このように、昨年は新型コロナウイルス感染症に振り回された一年でありました。未だ道半ばではありますが、世界的にもワクチンの接種が始まり収束へ向け一筋の光が見えてきました。市長いわく「必ず春は来る」その意気込みで、この難局を乗り越えていただきたい。</p> <p>また世界規模の課題である気候変動の問題や防災・減災、子育てや高齢社会の問題、時代とともに変化するデジタル化や公共施設、更にはオリンピック・パラリンピックのイベントなど、この市政施行 50 周年を迎えるにあたり課題は山積であります。この 50 周年を変革の年と捉え、多摩市民が安心と希望を持てる街となるよう期待し、以下質問します。</p> |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. 新型コロナウイルス感染症対策                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| (1) ワクチン接種について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>コロナ禍収束への決め手となるワクチン接種を、何としても成功させなければなりません。しかし短期間でこれほど多くの人に接種することは、これまで経験したことのない大事業です。しかも、医療従事者の不足が指摘される中、希望者全員に接種するためのマンパワーが必要であり、また接種会場や後方も含めるとかなりの作業となります、市民に混乱が無いよう、しっかりとした人員確保と準備や臨機応変な対応を望みます。</p> <p>また市民に対しワクチンの有効性・安全性・副反応など必要な情報を分かりやすく発信することが重要であり、さらには接種までの手順や場所・優先接種の順番など分かりやすい説明が必要です。このように混乱なく安心してワクチン接種を受けられる情報の発信について。さらには電話での相談や窓口などの強化も必要です。「つながらない」「どこへ相談に行けばよいのかわからない」このような事の無いよう十分すぎる体制で臨んでいただきたい。</p> <p>また、障がい者や在宅で寝たきりの方・移動困難な方への接種について市民からの声があります。</p> <p>上記の人員・情報の発信・困難者への対応について、市の取組みを伺います。</p> |
| (2) 今後においても自宅で療養する感染者の方がいると思われます。その中には症状が急変し、実際に死亡する事態も起きています。家族内感染を防ぐために、宿泊施設での療養も推進していますが、家庭の事情や十分な受け入れができない施設もあるといわれています。国や東京都で公明党が提案した（血中酸素濃度を測る）パルスオキシメーターの貸与もようやく始まったと思われますが、体調の変化に応じて医療機関と確実につながる体制は現状整っているのか不安なところですが。市の認識と、また在宅療養者への支援について多摩市の考えや取組みを伺います。                                                                                                                                                                                                                                                          |
| (3) 市長施政方針の中には保健所設置でない本市においては必要な情報がらず、具体的な対策の検討や実施が出来なかったとあります。現状ではどうなのか。また今後どう連携を図り改善していくのか、市の取組みを伺います。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| (4) 介護・障害福祉現場における業務負担や人材不足も一層深刻と言われていきます。重症化リスクの高い高齢者に接する従事者は感染防止対策を厳格に行いつつ現場を懸命に支えています。継続してのサービスが提供できる支援が必要です。市内の介護等福祉施設の状況と対応について伺います。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>(5) コロナ禍の影響で、がん検診など様々な検診や、また受診など控える方が増えていると思われ、健康上へのリスクが高まる懸念があります。適時適切な検診の働きかけ、受診機会確保の強化を望みますが、多摩市の状況と取組みを伺います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| <p>2. 生活支援について</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>(1) 二度目の緊急事態宣言により再度の経済・生活支援対策として、生活困窮者や事業者への支援金や補助金が盛り込まれました。大切なことは、必要とする人に支援や情報が的確に届くことです。個人情報保護も厳守しつつ、制度利用者リストなど支援関係者間での共有や、有効と思われる制度のお知らせチラシを送付するなどプッシュ型の取組みやアウトリーチによる取組みを積極的に推進することが必要です。また住宅確保給付金や生活に困窮する全般の相談窓口である「しごと・くらしサポートセンター」の周知も重要です。これらについて市の認識と見解を伺います。</p>                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>(2) コロナ禍が長期化するにあたり生活が困難になる市民も少なくはありません。セーフティーネットである生活保護については国民の権利であり、保護を必要とする方がためらうことなく生活保護が受給できるように、生活保護についての誤った知識・先入観を払拭する広報が必要と思われます。</p> <p>また生活保護の申請にあたり、公明党が政府への提言で「新型コロナウイルス感染症がおさまれば一定の収入が見込まれるケースも多いことから、資産要件や車の保有等についての猶予を要求。また、入りやすく出やすい生活保護をコロナ特例として実施すること。併せて生活保護と生活困窮者自立支援制度の連携をより一層強化し、切れ目なく支援する体制を構築すること。」等を要請しました。さらに今国会では、「特に親族の了承がネックとなっている（扶養照会）については条件が厳しい。」と運用の改善を求め、厚生労働省は、「公明党の要望を受け弾力的に運用できるよう努力する」と前向きな答弁がありました。今後の展開を見据え多摩市としても、当事者に寄り添い弾力的な対応が必要と思われるが、多摩市の認識と見解を伺います。</p> |
| <p>(3) 新型コロナウイルス感染症の影響で経営に苦しむ飲食店や中小企業など市内でも数多くあると思われます。ワクチン接種が始まり収束へ方向へ向かうと思われますが、先が見えない不安や、収束しても今までと同じ様な経営状況に戻るまではかなりの時間を要します。そのような市内事業者に対し、国や都の補助だけでなく、きめ細かいフォローが「長期的」に必要となります。まずは状況の把握とともに今後の支援についても相談やアドバイスなど様々な</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                  |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>関連機関の協力を得て、対応していただきたい。</p> <p>また雇用についても解雇や雇い止めなど少なくありません。商工会議所や市内企業またワークプラザなどと連携を図り、就労のマッチングや市民の優先雇用などの取組みが必要と思われます。また東京都はコロナ禍の状況を踏まえた雇用対策を重点的に事業化し、2万人を超える雇用を創出するプロジェクトを展開する予定です。</p> <p>多摩市としても市民への周知や後押しなどが必要です。これら経営や雇用問題に対し、市の認識と取組みを伺います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>3. デジタル化の推進</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>デジタル社会の構築は、ポストコロナにおける経済成長の一つであり、生活の向上や豊かさの実感につながり、あらゆる分野で進める必要があります。また公明党は「豊かな国民生活と誰一人取り残さない社会をつくるためのデジタル化」を訴えてまいりました。年齢や能力などの違いにかかわらず、多くの人が利用できることで、平時はもとより災害や感染症などの危機を乗り越える手段になります。</p> <p>12月議会、私の一般質問でもデジタルデバイト、また、いわゆる IT 弱者の質問をしました。急速なデジタル化に対してのフォローが必要のことですが、東京都でもデジタルファースト条例を施行し、デジタルデバイトの是正に向けて、モデル事業を実施、効果のある施策のノウハウをデジタルデバイト対策のガイドラインとして取りまとめ、各市区町村の取組を支援する。そのような新規事業が始まります。多摩市は単身高齢者や高齢者だけの家族が多くデジタル格差が更に進みます。先進的な取組みが「早急」に必要です。</p> <p>また、行政のデジタル化も急速に進みます。マイナンバーを介した様々な市民サービスや、リモートでの相談なども検討し進めるべきです。そのためにもデジタル化に関しての人材育成や人材の確保、更に設備も必要です。これらに関し市の認識と見解を伺います。</p> |
| <p>4. 地球温暖化対策について</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>新型コロナウイルス感染症とともに世界共有の問題として地球温暖化の問題があります。本年はパリ協定の発効から5年を迎え、既に120以上の国・地域が50年カーボンニュートラルを表明し、国内では、208の自治体がゼロカーボン宣言するなど国内外での機運が高まっています。また脱炭素社会の構築は、デジタル化と並び、日本での産業構造やライフスタイルの転換を促し、今後の日本経済の発展を左右する重要な取組みでもあります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>多摩市においては、昨年議会とともに「気候非常事態宣言」を表明し先進的に取り組んでいる団体であり、リサイクルや緑の多さと環境に配慮した街であると思われます。昨年の12月議会でも一般質問で取り上げ「新型コロナウイルス感染症の波にのまれた一年であったが、更なる市民意識の向上とアピールを」と要求しました。市長施政方針でも環境対策に関する意欲と、様々な事業に取り組んで、意識の向上「ハートに火をつける」その言葉に期待する所であります。</p> <p>ただ以前にも申し上げましたが、このような環境問題は関心がある方と無い方に分かれ差が生じます。出来たら市民全体に関わる事業にも挑戦していただきたい。また、今や多くの企業もSDGsに賛同し、主に環境問題については関心があります。そのような市内企業と連携の強化や支援要請と、新たな開拓などにも挑戦し拡充していただきたい。市の見解と今後の取組みについて伺います。</p>                                     |
| <p>5. 安心・安全なまち</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>(1) コロナ禍においても、甚大化する風水害や切迫する巨大地震への対策は待ったなしです。最近では2月13日午後11時、福島県沖を震源とするマグニチュード7.3の地震があり、最大震度6強を観測しました。気象庁によると、「2011年3月の東日本大震災の余震と考えられる。」そのような発表がありました。今年は東日本大震災から10年という大きな節目でもあり再度、防災に関して力を入れていただきたい所であります。</p> <p>さて2019年の台風19号による被害では、あわや多摩川の氾濫寸前まで至りました。治水対策、避難体制、情報発信等は万全なのか伺います。</p> <p>また、1923年に起こった関東大震災から100年近くたちますが、100年周期に関東で大きな地震が起こっているデータがあります。地震については、ここ多摩市でも、いつ何時に起きてもおかしくありません。高齢化も進み避難所運営や要支援者のための「避難支援個別計画」の状況が心配です。現状と対策について伺います。</p> |
| <p>(2) 特殊詐欺の現状について、2020年の被害総額が減少したにも関わらず約277億円と未だに多くの被害が出ています。依然として高齢者を中心に被害が高水準で発生しており深刻な状況です。また新型コロナウイルス感染症に関しての詐欺も起きており「ワクチンの優先」や「投資」などの詐欺話も聞かれます。自動通話録音機の更なる普及と注意喚起が必要です。市の見解を伺います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                               |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 6. 子育て・少子化対策について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| <p>(1) 少子化の問題は、教育費など経済的な負担や、仕事と子育ての両立の難しさ、子育て中の孤立感や負担感、出会いの機会の減少、年齢や健康上の理由など、さまざまな要因が挙げられます。重要なことは、こうした要因を着実に解決して、希望する女性や若い世代が安心して子どもを産み育てられる社会をつくることです。</p> <p>その中でも公明党は「家庭の経済的事情にかかわらず、希望すれば誰もが必要な教育を受けられる社会にしたい!」と教育費の負担軽減を訴えてきました。少しずつではありますが確実に、幼児教育・保育の無償化や高校授業料の実質無償化、また給付型奨学金の拡充などが進んでいます。</p> <p>幼児教育・保育の更なる課題として「質の向上」と「受け皿の整備」と昨年の代表質問でも取り上げました。多摩市においては独自に「子育て支援員研修」や「バックアップの研修」などで保育人材の確保や質の向上などの取組みを実施することに高く評価いたします。</p> <p>また以前より訴えてきた待機児童の問題。特にニーズの高い駅周辺の整備については永山駅エリア、多摩センター駅エリアと整備され待機児の解消も大きく前進します。これにより待機児童は減ると思われそうですが、実際の見通しはどうか、学童クラブの待機児状況もあわせて伺います。</p> |
| <p>(2) 新たな子育て施設としてパルテノン多摩、施設内に整備される「子どものエリア事業」は期待するところです。4階の施設には広々とした多摩中央公園に面しており、晴れた日の休日には多くの家族連れが訪れると思われます。公園の改修には大型の遊具や水で遊べる環境。さらに中央図書館も整備されます。帰りには買い物など地域の活性化にも期待できます。</p> <p>クリエイティブ・キャンパス構想とで様々なイメージがありますが、若い家族が多く訪れ子育てに優しい多摩中央公園エリアとしていただきたい。子育て環境の充実、まちの魅力であり若い世代の流入や定住促進にもつながります。</p> <p>パルテノン多摩内の子育て事業について、公園・図書館・文化施設など他の所管も、しっかりとフォローし連携を図りファミリー層に魅力ある地域にしていきたい。市の見解を伺います。</p>                                                                                                                                                                                        |
| 7. 教育について                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <p>GIGA スクール構想のもと生徒一人ひとりにタブレット端末や校内のネットワーク環境など、整備され本格的なデジタル教育が始まり授業の効率や分かりやすさに期待します。また議会でも取り上げてきた、学校教室や体育館への空</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |



# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>調整備など、学習環境の改善も評価いたします。更には学校のプール授業を民間のプールを活用する取組みについては、先進的な取組みであり成功と拡充を願うところです。教育内容については英語教育「話す力」のさらなる向上とあります。子ども達には英語が好きになるような授業や楽しみながら学べる工夫をしていただきたい。このように教育環境の整備や教育内容の充実については大いに評価します。</p> <p>気になることとして、前回の一般質問にて「子どもの幸福度をはかるユニセフの調査で「精神的な幸福度」は37位、先進国中ワースト2位と残念な結果であり、また新型コロナウイルス感染症による子どもたちの精神的な影響は大きい。対応を望む。」そのような質問をしました。</p> <p>市長施政方針には「教育面からは、学校・家庭・地域が連携・協働して、全ての子どもたちに「生きる力」を育むための環境づくりと教育を推進する」そのような決意も述べられ期待する所です。誰一人取り残さない大事な視点です。実際、具体的にどのような取組みを行うのか。市の見解を伺います。</p>                                                                                                         |
| <p>8. 地域活性化と産業振興について</p> <p>新型コロナウイルス感染症の脅威から命と生活を守るとともに、その先を見据え、ポストコロナへの新たな展望を開かなければいけません。</p> <p>コロナ禍において、テレワークやオンライン会議など、大きく勤務形態が変わりました。市長施政方針でもサテライトオフィスの推進とあり期待する所です。出来れば、公共施設でも軽微な作業が出来る場所の確保や、Wi-Fiや電源などの整備も検討していただきたい。またアフターコロナを見据えた事業者の取組みについて幾つか例を上げていますが、引き続きスピード感を持った臨機応変な支援を望むところです。</p> <p>多摩センター駅周辺地区の活性化について。上記においては子育て環境の視点での要望としましたが、マネジメントを含め、まちのにぎわいを創出していくしくみの構築に向けて検討とあります。現時点で、どう変えたいのかイメージがあれば伺います。また聖蹟桜ヶ丘駅周辺地区の活性化について河川空間を有効資源として活用する「かわまちづくり」に取り組んでいるとあります。イベントなどの実証実験も行っていますが、公明党としても以前より河川敷でのバーベキューや歩行者や自転車など歩道の整備を提案してきました。イベントだけでなく平時でも賑わう取組みについて市の見解を伺います。</p> |
| <p>9. 健幸まちづくり・コミュニティについて</p> <p>多摩市の健幸の文字は「幸せ」であります。幸せとは人とのつながりを通し</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>て得られるものではないでしょうか。このコロナ禍で多くの多摩市民が疲弊しています。昨年より様々なイベントや学校行事の中止・市民活動の停止により、人とのふれあいが無くなり希薄化しています。あらためて地域コミュニティの大切さを実感したのではないのでしょうか。</p> <p>それに伴い昨年の DV 相談件数が過去最多であり、児童・女性だけでなく高齢者も同様であります。家族以外との接触機会の減少による潜在化が懸念されています。さらには自殺の増加もまた然りです。また高齢者の運動機能の低下・地域力の低下も心配です。このように目に見えない新型コロナウイルス感染症の影響は計り知れません。対応の強化を求めるのと同時にコミュニティの醸成にも力を入れていただきたい。</p> <p>イベントや施設の開放など責任を問われる所ですが「正しく恐れる」を根本に「健幸まちづくり」の強化を求めます。市の見解を伺います。</p>                                                                                                   |
| <p>10. オリンピック・パラリンピックについて</p> <p>夏に予定されている東京オリンピック・パラリンピックは、新型コロナウイルス感染拡大危機を世界が結束して乗り越え、再起を誓う象徴の場であり、選手たちが与えてくれる勇気や感動は、不安や閉塞感を払拭させる「光」になると思われます。</p> <p>しかしながら、オリンピック組織委員会会長の交代なども重なり、オリンピック・パラリンピック大会に関してのイメージや機運が低下している状態です。なかには「中止すべき」との声もありますが、世界が注目している大会であり、日本の真価が問われる大会でもあります。</p> <p>多摩市は自転車ロードレースの開催地です。感染症対策を万全に行いながらも大会の大成功と市民の機運醸成にしっかりと取り組んでいただきたい。</p> <p>さらにはホストタウンであるアイスランドや台湾のバドミントン代表を迎えるにあたり、将来に持続発展的な交流の礎を築いていただきたい。</p> <p>何よりも多摩市での大会・イベントなど「本当に開催して良かった。」と心から市民が思えるような取組みを期待します。市の見解を伺います。</p> |
| <p>11. 平和活動について</p> <p>公明党は、核兵器の保有や使用を全面的に禁じる「核兵器禁止条約」が発効したことに関し、「わが国も最終的にはこの条約を批准できるような環境を整えていくことが、あるべき方向性」そのように政府に条約への参加を前向きに検討するよう求めています。また締約国の会合にオブザーバーとして参加することも求め、「他にはない唯一の被爆国としての国際的な立場を生かし、核保</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

# 質 問 内 容

有国と非保有国の橋渡し役をしっかりと務めるべき」とも述べています。

核兵器の無い世界を心から願うところです。

多摩市においても平和に関する子どもたちへの被爆地派遣事業や平和展など様々な事業や教育を展開していることに高く評価します。これからも政党色のないピュアな取り組みと更なる拡充を期待します。

市長・教育長の意見を伺います。

# 代 表 質 問 通 告 書

下記の件について、質問いたしたく通告いたします。

2021 年 2 月 17 日

会 派 名 日本共産党

多摩市議会議員 大くま 真一

多摩市議会議長 藤原 マサノリ 殿

## 質問項目

市長施政方針について

## 答弁者

市長・教育長等

|        |                  |       |
|--------|------------------|-------|
| 受<br>付 | 令和 3 年 2 月 1 7 日 | No. 3 |
|        | 午前 1 1 時 4 6 分   |       |

## 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>まずは、新型コロナ感染症の中で命を失われた方々に哀悼の意を表するとともに、医療関係者や今まさに闘病中の方をはじめ、手洗いやマスクなど感染拡大防止対策をとり、新型コロナウイルスに立ち向かっているすべての方々に敬意を表し、ともにコロナ危機を乗り越えていく決意を表明したいと思います。</p>                                                                                                   |
| <p>発生から一年以上がたち、現在この新型コロナウイルス感染症に、世界中で1億人以上が感染し、251万人以上が亡くなっています。ここ日本でも41万人を超える感染者、7,000人を超える死者がでています（2月16日時点）。</p>                                                                                                                                   |
| <p>日本共産党は、感染拡大のごく初期の段階から、PCR検査を社会的検査も含め大きく広げることや、補償と一体となった自粛による感染予防の推進、危機に直面する医療機関の支援やくらし・営業を支える支援を、多くの国民の皆さんと共に求め、実現もしてきました。</p>                                                                                                                    |
| <p>新型コロナ危機は、経済的な格差が生存の格差に直結する状況を生み出し、「小さな政府」、「自己責任」を押し付ける新自由主義の下で、医療や公衆衛生といった分野すら、切り崩されてきた社会がいかに脆いものであるかを浮き彫りにしています。感染拡大の防止や医療体制の確保といった緊急対策を進めるとともに、コロナ危機という共通の体験をふまえて、「コロナ後にはよりよい未来をつくりたい」という国民の願いに基づいて、この危機をのりこえた先の「新しい社会」の姿を示すことが、いま求められています。</p> |
| <p>1、「新しい社会」へ 多摩市から発信を</p> <p>日本共産党は「新しい日本をつくる五つの提案」として、①新自由主義から転換し、格差をただし、暮らし・家計応援第一の政治をつくる、②憲法を守り、立憲主義・民主主義・平和主義を回復する、③覇権主義への従属・屈従外交から抜け出し、自主・自立の平和外交に転換する、④地球規模の環境破壊を止め、自然と共生する経済社会をつくる、⑤ジェンダー平等社会の実現、多様性を大切にし、個人の尊厳を尊重する政治を、の五つを提案しています。</p>     |
| <p>そうした観点から市長施政方針にたいして、日本共産党多摩市議団を代表して質問を行います。</p>                                                                                                                                                                                                   |
| <p>(1) コロナ危機の中で、改めて、医療、介護、障害福祉、保育など、ケア労働に携わる方々の役割が改めて注目を集めています。一方で、こう</p>                                                                                                                                                                            |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>した方々の処遇は、一部で改善が進められていますが、まだまだ十分とは言えない状況です。地域の福祉を支えるこうした方々の処遇改善の必要性について、認識を伺います。</p>                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>(2) コロナ危機の中で、公立・公的な病院が大きな力を発揮しています。しかし政府はこうした病院の統廃合や独立行政法人化の方針を崩していません。そうした中で、市内にある南部地域病院についても東京都は独立行政法人化を進めています。市民に医療体制を保障するためにも、国や東京都に対して統廃合や独立行政法人化の方針の撤回を求めるべきだと考えますが、認識を伺います。</p>                                                                                                                                            |
| <p>(3) コロナ危機のなかで「医療崩壊」ということが言われています。その背景には、感染症対策や急患の受け入れなど、本来は余裕が必要な医療の現場に対して、診療報酬改定などで常に病床がいっぱいでなければ経営が成り立たないような状況に追い込んできた、国の政策の誤りがあります。この点についても国に方針の転換を求める必要があると考えますが、認識を伺います。</p>                                                                                                                                                 |
| <p>(4) コロナ危機のなか、非正規雇用で働く方々は深刻な打撃を受けています。そしてその中心は女性と若者です。一方的な雇止めや就労日の減といった相談が増えています。多摩市は東京都で初めて公契約条例を作った自治体です。その目的には「業務に従事する者の適正な労働条件等を確保し、もって労働者等の生活の安定を図り、公共工事及び公共サービスの質の向上に資するとともに、地域経済及び地域社会の活性化に寄与することを目的とする。」と書かれています。適正な労働条件、労働者の生活の安定のためにも「雇用の流動化」促進は許されません。認識を伺います。また、コロナ危機の中苦境に立たされる方々に対して、就労の支援など検討するべきだと考えます。認識を伺います。</p> |
| <p>(5) コロナ危機の中、住み続けられる多摩市とするためには、改めて都営住宅の増設やUR等への家賃減額を求めることが必要だと考えます。また、市としての家賃補助や借り上げ市営住宅などによる住まいの確保の支援も必要です。認識を伺います。</p>                                                                                                                                                                                                           |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

# 質 問 内 容

|                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2、コロナ危機をのりこえる取り組みを                                                                                                                                                                                                                                             |
| 市長施政方針では、市民に最も身近な行政の長として、東京都にも情報提供を求め、実現してきたことや、医師会と連携を取り市独自でPCR検査センターを設置したことなどが述べられました。早い段階から検査体制を確立してきたことや、市独自に濃厚接触者以外へのPCR検査への補助や簡易検査キットの提供などを行い、感染拡大防止へ努力している点については高く評価をしています。しかし、まだまだ取り組まなくてはならないことがあります。                                                 |
| (1) 市内でも子ども達への感染が報告され始めています。「子どもは重症化しないから」と検査体制確立を軽視するむきもありますが、無症状でも感染を広げる新型コロナウイルス感染症においてそれでは収束へは向かいません。早期発見、また安心して学べる環境、育ちを保障する環境をつくるためにも、学校や児童福祉施設等での社会的、定期的検査が必要です。市の認識を伺います。                                                                              |
| (2) 感染拡大を防ぐためにも、また子ども達の豊かな学びを保障するためにも少人数学級の早期整備が必要です。市の認識を伺います。                                                                                                                                                                                                |
| (3) 市内には多くの若者や学生がいます。前段でも述べたように、いまそうした方々が職を失い、学費が払えない、食べていけない、家を失うといった苦境に立たされています。若者に地域の力になってもらおうと取り組んできた多摩市の責任として、コロナ危機で大変な今こそ支援する必要があるのではないのでしょうか。例えば永山ワークプラザと連携しつつ、アルバイトなどの働き方も含めた相談会を、アウトリーチで公園や駅など人目につく場所で行う。臨時の奨学金や家賃助成など、市としてコロナ危機における若者支援の必要性の認識を伺います。 |
| (4) コロナ危機の中で、市内でも感染が広がり、大きなクラスターが発生するなど市民の間に不安が広がっています。前回の一般質問では、市民に「まずはあそこへ」と認識してもらえるコールセンターの再設置を取り挙げました。あれから感染拡大がさらに進んでいます。再設置の必要性について、市の認識を伺います。                                                                                                            |
| (5) いよいよワクチンの接種も始まります。現在の準備状況についてご説明ください。                                                                                                                                                                                                                      |

# 質 問 内 容

3、次の 50 年に向けた「新しい多摩市」へのスタートを

多摩市も市政施行 50 周年を迎えます。それは、次の 50 年へのスタートの年であることも意味しています。多摩市として「新しい多摩市」の姿を描き、市民の命や暮らしを守り、幸福追求権を具体的に保障していくためには、地域の皆さんの力もちろん必要ですが、それを調整し、まとめていく市の職員の皆さんの力が不可欠です。

「新しい多摩市」へ、こういった体制を作っていくべきなのかという観点から以下伺います。

(1) 多摩市ではこれまで、「行財政改革」や「高すぎる人件費の削減」という声にさらされ続けてきました。市の職員人件費について、認識を伺います。

(2) 職員が削減される中で、専門的な業務が委託などに切り替えられてきました。地域に入り市民に寄りそう力を持つ職員の育成が必要だと考えるが、認識を伺います。

**資料要求欄**（資料要求がある場合は、以下に記入してください。）

① 市内小中学校を 35 人学級とした場合の教室数などの推計